

キャリア・パスポートの取組と課題及び改善の方向性 —世田谷区の取組を例に—

坂 本 正 彦

はじめに

2016年中央教育審議会の答申で示されたキャリア・パスポートについて、2020年度から小学校の学習指導要領の実施に伴い、各学校が取り組んでいる。本研究では、筆者が東京都世田谷区の教育現場で取り組んできたことを基に、現在の取組状況を調査し、キャリア・パスポートの活用の現在の課題と、今後の方向性について考察する。

2021年度現在、東京都内の各自治体の取組状況はまちまちであり、各学校の取組状況にも温度差がある。1つの施策が軌道にのるには時間がかかることは仕方がないことだが、キャリア・パスポートの意義をよく理解し、それを有効に活用し確実に実施していくことが、将来の生き方を考えて成長できる児童・生徒に寄与することになる。本研究が、各学校のキャリア・パスポートの有効な活用に仕方の一助になることを願う。

I キャリア・パスポートの意義と教材づくり

1 キャリア・パスポートの意義

2016年の中央教育審議会の答申、第8章3のキャリア教育では、「学校と社会との接続を意識し、子供たち一人一人に、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育み、キャリア発達を促すキャリア教

育の視点も重要である」¹⁾としている。キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じて、キャリア発達を促す教育であり、キャリア発達とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程である。²⁾

答申では、「小・中・高等学校を見通した、かつ、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育を充実するため、キャリア教育の中核となる特別活動について、その役割を一層明確にする観点から、小、中・高等学校を通じて、学級活動・ホームルーム活動に一人一人のキャリア形成と実現に関する内容を位置づけるとともに、「キャリア・パスポート（仮称）」の活用を図ることを検討する」とした。³⁾

そして、特別活動の具体的な改善事項の教育課程の示し方の改善の1つの指導内容の示し方の改善（学級活動、ホームルーム活動の内容）に、「小学校の学級活動の内容（3）を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるように、整理すること」⁴⁾と示され、2017年の小学校学習指導要領では特別活動の「学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」が設けられた。また、学習・指導の改善充実や教育環境の充実等の教材や教育環境の充実として、「教育課程全体で行うキャリア教育の中で、特別活動が中核的に果たす役割を明確にするため、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材（「キャリア・パスポート（仮称）」）を作成することが求められる。特別活動を中心としつつ各教科と往還しながら、主体的な学びに向かう力を育て、自己のキャリア形成に生かすために、活用できるものとなることが期待される。将来的には個人情報保護に留意しつつ電子化して活用することも含め検討することが必要である」⁵⁾として、キャリア・パスポートの意義を明確にした。

そこで、小学校学習指導要領の特別活動、学級活動の内容の取扱いに、「学級活動（３）の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見直しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等活用する」として、キャリア・パスポートが位置づけられた。小学校学習指導要領解説特別活動編では、活用の意義を以下の３つで示している。⁶⁾

- ・小学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になる。
- ・小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資する。
- ・児童にとっては自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては児童理解を深めるためのものとなる。

その後、「キャリア・パスポート」導入に向けた調査研究協力者会議で検討が行われ、2019年3月に「キャリア・パスポート」例示資料が出され、キャリア・パスポートが次のように定義された。

「キャリア・パスポートとは、児童・生徒、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童・生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。」⁷⁾としている。

以上のような経緯で、「キャリア・パスポート」の必要性和その定義が

なされ、例示資料が提示され、それを参考に2020年4月から実施できるように、各自治体・学校では、教材の作成等の準備に取り掛かった。

2 「キャリア・パスポート」の教材づくり

(1) 世田谷区立尾山台小学校の取組

世田谷区立尾山台小学校は、キャリア教育の研究を2014年から始めており、キャリア・パスポートを「キャリアン・パスポート」と名付け、2017年の2学期から開始した。2017年3月に学習指導要領が告示されたばかりで、先進的な取り組みであった。キャリアン・パスポートの内容ときまりについて、以下の4つを示している。⁸⁾

- ① 学びのプロセスを振り返ることができるようにすること
- ② 自己評価を行うこと
- ③ 教員が対話的に関わること
- ④ 6年間の目標、学期の目標以外には、1学年3枚程度とすること

具体的な形式として、

- ・ A4版のクリアファイルを一人1つ用意する。
- ・ 表紙に児童向けにキャリアン・パスポートの趣旨を書く。
- ・ 最初のポケットに「6年分の目標が書けるシート」1枚を入れる。
- ・ 各学年3ページ分にして、6年間で18シートに入れるようにする。
- ・ 「①年間の目指す自分、各学期の目標と振り返り、先生より、家庭よりが書けるシート、②運動会、学芸会or展覧会等の大きな行事の目標と振り返りのシート、③各学年で特徴的な学習等のシート」を入れる。
- ・ 6年生のみ、「中学校でめざす自分」を書き込むシートを入れる。

活用方法は、

- ・ 学級活動の時間年間3～5時間ほど使って、記録と自己評価を行う。
- ・ 3月の中旬に振り返りを書かせ、担任がコメントを書いたあとに家に

持ち帰らせ、保護者からのコメントを書いてもらう。
というように行っている。また、教師や保護者の対話的なかかわりを重視し、認め励まし誉めるコメントを通して、児童の自己肯定感が高まるようにしている。特に、キャリア・カウンセリングを重視し、教員が指導的・指示的にならず、児童自ら自分の成長に気づくような言葉がけをすることを重視している。「気づきをもたらすコミュニケーション」と言っている。児童自らが自己理解や意思決定のできるように教員が支援することこそ、自分のよさや可能性を知り、自己実現につながっていくと考える。

この尾山台小学校の実践は、各学校での取り組みの準備の参考になった。

(2) 世田谷区教育委員会の取組

世田谷区教育委員会では、各学校のキャリア教育の充実に向けて各学校のキャリア教育担当の教員に、2021年度までは年間3回のキャリア研修を行っていた。2019年度の研修に尾山台小学校の実践を紹介し、各学校のキャリア・パスポートの教材づくり等の準備に向けて指導をした。そして、2019年12月に、キャリア・パスポートの作成についての通知が出された。⁹⁾

キャリア・パスポートのシートは、

- 学校独自の様式を作成し使用するが、サンプルとして、「1年間のあゆみ」「行事ではぐくもう」が示された。
- シートは、各学年コンパクトにまとめ、数年に渡り見返すことができるように、各学年3枚（表裏6枚）以内と示された。

キャリア・パスポートのファイルは、

- クリアポケットファイルを区で一括購入し配布する。
- 校内で適切に管理し、個人情報の管理を適切に行う。
- 学年間のファイルの引継ぎは、教師間で行う。区立小学校から区立中学校への引継ぎは、生徒を通じて行う。区立小学校から国立・私立中

学校に進学する場合や、区立中学校から高等学校等へ進学する場合は、進学先の求めに応じて個別に対応するように指導し、児童・生徒がそれぞれ提出するものとした。

このように、各学校の準備に合わせて、世田谷区教育委員会から方向性が示されたが、キャリア・パスポートのシートの内容や活用の仕方については、各学校に任されており、学校間で取り組み具合の格差や違いがあった。

(3) 世田谷区立烏山小学校での取組

世田谷区立烏山小学校は、筆者が2020年度まで勤めた学校であり、筆者の学校では次のように進めた。

これまで学校では、各学級で必ず学期初めに毎学期の目標を立て、学期の終わりに振り返る活動を行ってきた。また、学校行事に対しても、事前指導として行事に取り組む目標を立て、事後指導として目標に対する振り返りをさせてきた。しかし、シートに関しては、各学年・各学級の担任に任せていたので、そのシートの様式や書く内容はバラバラだった。また、学年末に児童に返してしまい、それを次の学年に生かすことはしなかった。

そこで、キャリア・パスポートの導入に当たって、まず、全校で書く内容や形式をそろえ、低・中・高学年別に作成し直した。各学期の目標の項目を学校目標の知・徳・体に合わせ、「学習の目標」「生活の目標」「健康の目標」の3つの目標を立て、振り返るシートにした。運動会、学芸会or 展覧会の行事に関しても各学年形式をそろえ、目標を立て、振り返るシートにした。まとめると、シートは全部で6枚、学期の目標と振り返り3枚、2つの大きな学校行事のシート2枚、学年末の1年間の振り返りのシート1枚、3ポケットを使うことになった。

2020年4月から始められるように、ファイルを学校独自で購入し、「烏

山小キャリア・パスポート」と名付け、2019年度の学期の目標の振り返りシートと行事の振り返りシートを入れ、準備は整え終わった。しかし、2020年3月から新型コロナウイルス感染症の拡大防止の学校臨時休業のため、シートへの記入は家庭学習となり、1学期は十分できなかった。

2学期以降は、学級活動（3）の時間として、学期の目標を立てる時間と振り返る時間、運動会や学芸会から変更したブックフェスティバルの行事の目標を立てる時間と振り返る時間をとって行った。特に、学期末の振り返りは、45分の1単位時間を取り、1年間を振り返り、学級目標の振り返りと合わせて自分の目標の振り返りを行った。その際、キャリア・パスポートにファイルしたこれまでのシートを見て、自己の振り返りをさせ、自己の成長を感じさせて、次の学年への希望をもたせた。

担任がコメントを書き、通知表と一緒に児童に返し、保護者にコメントを書いてもらった。

以下は、5年生の児童の1年間の振り返りと6年生に向けての希望、自己肯定感や自己有用感を高める担任や保護者のコメントである。これらを読むと、児童が自分にどんな成長があったかに気づき、その成長に喜びを感じ、次への目標に向けて意欲的に取り組もうとする姿がある。また、担任教諭がそれを温かく励まし応援するメッセージを送り、保護者は我が子の成長の軌跡を知り、我が子の成長を温かく支え見守っていく姿勢がわかる。このようなことはこれまでの教育活動でもしてきたことだが、キャリア・パスポートという形で、小・中・高の12年間、児童・生徒の記録として手元の残ることが大変有効であると考ええる。

【1年間を振り返って自分の成長をまとめましょう】

学校の授業では、たくさんの知識が身に付いた。また、自分から進んで発言できるようになった。そろばんの級が上がり（暗算も）、計算を早くできるようになった。委員会での放送や、6年生を送る会

でははじめの言葉、お別れスポーツ大会のはじめの言葉など、自分から進んで取り組めたと思う。そして、係活動や当番活動などでも自らやれたと思う。

【こんな6年生・最高学年になりたい】

今年の委員会では、今までやっていなかったことにたくさん挑戦した。例えば、ユニセフ募金をすることなど。それを6年生でも生かしていきたい。また、下級生が安心して楽しく学校に来られるように、1年生のお世話をしたい。

【先生のコメント】

代表委員やお別れスポーツ実行委員など、たくさんの挑戦が〇〇さんをパワーアップさせたんですね。6年生になっても新たなチャレンジをどんどんして行ってね。

【保護者のコメント】

キャリア・パスポートを見ました。この1年コロナで大変だったにもかかわらず、何と多くのことを学んだことかと感心しました。その一つ一つに全力で取り組んだ様子がよく分かります。物事に一生懸命に取り組むのは〇〇ちゃんの長所の一つです。これからもがんばってね。

(4) 世田谷区の他校での取組

他校でも、世田谷区で示された例示をもとに各学校の学校目標や重点目標にそって作ったものや、区で例示されたものをそのまま使ったりして2020年度から進められるように準備はできていた。世田谷区は、先行研究の尾山台小学校のモデルがあったので、スムーズに進められたようだ。

しかし、2020年3月から新型コロナウイルス感染症の拡大防止の学校臨時休業、2020年4月、5月、6月と臨時休業、分散登校を経て、6月22日

から通常の登校が始まった。また、世田谷区から配布される予定であったクリアファイルが、6月以降であったため、キャリア・パスポートの活用は、2学期から始め、保護者に周知していく学校が多かった。学年末には、学級活動（3）の時間として、1年間の振り返りを行い次学年への希望をもたせ、キャリア・パスポートのファイルの中身を整理した。キャリア・パスポートのファイルを家庭に返して保護者にコメントを求めた学校とそのまま学校保管した学校があり、その扱いは学校間に違いがあった。

II キャリア・パスポートの課題と改善の方向

2021年4月、キャリア・パスポートの活用が2年目に入った。その取り組みの様子を世田谷区内や他の自治体の先生に聞くと以下の課題点が考えられる。

1 小・中・高のつながりをつける活用の仕方

数校の中学校の先生から聞くと、以下の2つにまとめられる。

- 複数の小学校からキャリア・パスポートを引き継いだが、入っているシートがバラバラであった。どのように活用していったらよいか迷っている。
- 小学校と中学校の学び舎のグループで、シートや活用の仕方について話し合ってこなかった。小・中が連携して進めていく必要がある。

M区では、中学校区ごと小中学校が一緒になってシートづくりをしている。世田谷区では、各学校に任されてきた。筆者の勤務した学校でも学び舎でどのようにするか話し合ってこなかった。また、中学校は、新学習指導要領の実施が2021年度であり、2021年度から初めて中学校にキャリア・パスポートが引き継がれたばかりである。今後、学び舎でシートの内容やファイルに入れる枚数、キャリア・パスポートの意義を理解した活用

の仕方等を共通理解していく必要がある。

筆者は、シートは、自分の目標と振り返りを書くシートと学校行事の体育的行事と文化的行事に関わるシートだけでよいと考える。その他にあった場合は、中学校に進学する時にファイルから抜いてしまうようにする。活用の仕方は、小学校6年生の3学期の最後に書いた6年生の振り返りと中学校に向けての希望を活用して、中学校1年生の目標を決めていく学級活動（3）の時間をとる。体育的行事や文化的行事の際に、小学校での運動会や学芸会or展覧会の振り返りシートを活用してその行事の目標を決めていくことがよいと考える。

2 学級活動（3）の時間数と活用の仕方

キャリア・パスポートを活用した授業は、自分の目標と振り返りをする学期初めと終わりで6回、運動会と学芸会or展覧会の学校行事の目標づくりと振り返りで4回、計10回行うことになる。この時間を1単位時間で扱うと10時間分使うことになり、学級活動36時間の三分の一程度取ってしまうので、他の内容ができなくなってしまう。多くても6時間程度で、余剰の時間や朝の会等で行うことが望ましいと考える。

そこで、筆者は、学年の始まりと学年終わりの時間は、45分の1単位時間で2時間扱い、その他の4回で2時間、運動会の目標づくりと振り返りで1時間、学芸会or展覧会の目標づくりと振り返りで1時間が望ましいと考える。

また、活用の仕方としては、自分の目標等に関わるシートは、前学年や前学期のシートの振り返りを見ながら活用する。学校行事等に関わるシートは、前学年での運動会や学芸会or展覧会のシートを見て思い出させ、自分の今年の成長のための目標づくりにしていくとよいと考える。

さらに、自分の目標と振り返りをする学期終わりの学級活動（3）の時

間は、学年初めに学級活動（１）で話し合っただけで考えた児童・生徒の学級目標の振り返りと一緒にするようにする。学級みんなで考えた目標が学級としてどの程度達成できたか、その目標に学級の一員として自分はどの程度貢献できたか、だれがよく貢献していたかを話し合う時間を設ける。その後、自分の目標の振り返りをするようにする。このようにすることで、学級のために貢献したり、その貢献が友達に認められたりすることで、自己有用感が一層高まる。学級は小さな社会である。社会のために貢献できること、それは社会参画につながっていくことになる。（資料１参照）

３ シートの内容と枚数

世田谷及び世田谷区以外の各学校で作成したシートを複数みると、以下の３つに分類でききる。

- ① 自分の目標とそのためになすこと、振り返りを主に書くだけのもの（記述中心）
- ② ①の他に自分のよさや自分の興味をもっていること将来の目標などの自己紹介的なものや、評価の項目が示され○をつけてその達成状況を自己評価するもの（記述とチェック）
- ③ ②よりも項目ごとの自己評価のチェックが多いもの

世田谷区の例示は①に近く、文部科学省の例示は②に近いものであり、それを参考に作っているものと考えられる。各学校の教育課程に基づいて作るので、各学校の育てたい児童・生徒像に向けて特色あるキャリア・パスポートになっているものもあるが、例示に示された通りのものを使っている学校もある。教師のコメント欄や保護者のコメント欄は、ない学校、教師のコメントのみの学校、教師と保護者のコメントの両方がある学校の３つに分けられる。コメントは学期ごとに書く学校もある。

筆者は、シートは示された評価の項目に○をつけたり書いたりする内容

は、できるだけ少ない方が望ましいと考える。学級活動（3）のAの現在や将来に希望をもって生きる意欲や態度の形成には、自己理解を深め、日常生活について実現可能な具体的な目標を立て、意思決定し、自己のよさを生かして主体的に活動することが重要である。¹⁰⁾そして活動した結果、その目標の達成ができたかを自己評価することで、現在や将来に希望や目標をもってさらによりよく生きていこうとする態度が育つからである。自分が立てた目標に対する振り返りこそが大事であり、こうあってほしいと学校が設ける評価項目にチェックをいれることが多いのは、自分の目標に対する主体的な振り返りが薄れてしまいがちになると考えるからである。また、書く内容が多いと書く時間を多くとることになり、学級活動の授業が書くことが中心になってしまいがちになるからである。よって、シートの数もできるだけ少ない方がよい。筆者は、前述したように、目標と振り返り4シート、行事2シートが望ましいと考える。

教師のコメントや保護者のコメントは、なければならぬと考える。キャリア・パスポートの意義として、教師が対話的に関わり、児童・生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならぬからである。¹¹⁾学校での学びは教員であり、家庭での学びは保護者である。そのコメントがあることで、児童・生徒は、自分の成長に喜びを感じ、次への目標に向けてさらに日常生活を意欲的に取り組もうとするようになる。しかも、それが、小・中・高と12年間残っていくので、その時々先生や保護者の思いが、児童・生徒の心に響くものと考えられる。（資料2参照）

4 教員の意識

「2020年4月からやらなければならぬものが1つ増えた。」「やることが

決まっているので、例示で示されたものを参考にキャリア・パスポートを作ってやっている。」などと、数人の校長先生は話してくれた。今、教員の働き方改革の中で教員の多忙を解消する取り組みを行っているが、キャリア・パスポートを作りコメントを書くことなど、やることが減らず、一つ増えたと感じている教員もいるようである。また、教員の多忙感ややらされ感を感じさせず、主体的に取り組むことができるように校長先生が苦心していることも聞いた。

キャリア・パスポートの取り組みは、新しいことを始めたり特別なことをしたりするのではなく、今まで教員が児童・生徒の成長のために、学年初めや学期初めや行事等で目標をもたせて振り返る活動をしてきたことを小・中・高とつなげて残していくというキャリア・パスポートのよさを教員に感じさせていく必要がある。今後、継続して行っていく中で、そのよさを児童・生徒の変容から教員は感じていくと思うが、校長先生のリーダーシップの下、学校全体で、キャリア・パスポートを効果的に活用していくことが大事である。

筆者は、教員が対話的に関わることで、児童・生徒に自分のよさや可能性を気づかせていくことが重要であると考え。尾山台小学校で大事にしている「気づきをもたらすコミュニケーション」を教員が児童・生徒に話したり書いたりして伝えていくことを推奨したい。それは、児童・生徒を育てる教員の本務であって、やらされ感を決して感じるものではないからである。

Ⅲ キャリア・パスポートの今後に向けて

今後、キャリア・パスポートを教員や児童・生徒にとってよりよいものとして継続・発展できるようにするための有効な手立てを考えてみる。

1 通知表と一体化する

各学校では、家庭に児童・生徒の学習や生活の状況を伝える一つ的手段として、通知表を活用している。通知表には、担任からという欄（所見欄）を設け、児童・生徒の学校での学習や生活の様子、努力したことががんばったこと、よさや可能性等を書いている。学級担任にとっては、時間のかかる仕事である。また、学校によっては、家庭からという欄を設け、保護者から書いてもらっている。キャリア・パスポートには、教員が対話的にかわかることを大切にしてコメントを書くことになっている。

そこで、通知表の所見欄をなくし、キャリア・パスポートに所見欄を書く内容のことを児童・生徒に向けに書くようにする。キャリア・パスポートのコメントは、児童・生徒に自分のよさや可能性を気づかせていく記述が大事なので、所見欄に書いている内容と一致する。しかも、児童・生徒向けに書くことになり、それが児童・生徒の手元に残り、常に見て振り返ることができるので、自分の成長に役立てることができる。その方が有効であるとも考えられる。また、家庭からの欄は、保護者がキャリア・パスポートを見て我が子に向けてその努力を認め励ます内容になるので、通知表に書くよりも我が子に向けての思いが増し、保護者にとって有効である。また、学期終わり、学年終わりには、通知表とともにキャリア・パスポートを家庭に持って帰ることになるので、家庭でキャリア・パスポートを見ながら、我が子と共に我が子の成長ついて語り合うことも容易になるであろう。さらに、教員にとっては所見欄を書くことがなくなることで、働き方改革の一つになる。

2 各教科等で自己のキャリア形成を図る主体的な学びを実践する

学習指導要領の総則で、主体的・対話的で深い学びの「主体的な学び」を次のように示している。「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリ

ア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。』¹²⁾とし、各教科等の学びの中で、課題に見通しをもって取り組み、振り返って次につなげるというキャリア教育の視点を示している。

そこで、各教科等の授業で常時行うことになるが、特に、単元の終了時、自己の成長という視点から単元を振り返ったり、学年末の各教科等の終了時にその教科等で自分のついた力について振り返る時間を設けたりするようにする。それを積み重ねていくことで、キャリア・パスポートの振り返りに書く内容が深まってくると考える。各教科等の学びで、キャリア教育の視点から、主体的・対話的で深い学びの「主体的な学び」の授業改善を進めていく必要がある。

3 電子化に向けて

中教審の答申では、キャリア・パスポートを「将来的には個人情報保護に留意しつつ電子化して活用することも含め検討することが必要である。』¹³⁾としている。一人一台のタブレット端末が導入され、タブレット端末が児童・生徒の教科書やノートに変わりつつある。いつでもどこでも記入したり見たりすることができるようになり、自分の学びや成長を振り返り、次の学びに生かすことができるようになってくるであろう。現在、電子化に向けて企業等でコンテンツが開発されつつある。

しかし、筆者は、自分の成長を振り返る際、手書きの文字は、自分の成長を目に見える形で残していくために大変貴重なものとする。小学校1年で字を覚え書けるようになり、学年が進むにつれて書く量も増え、字も上手くなっていく過程がはつきり分かるのは、手書きで書くからである。小学校時代は、手書きを大事にしたい。シートに手書きで書いたものを写真に撮って電子化するのが望ましいと考える。

おわりに

2020年4月から始まった「キャリア・パスポート」の取組状況と課題について、世田谷区の取組や課題を中心に述べてきた。筆者は改善の方向についての意見を提示したが、今後、各自治体、各学校で児童・生徒の反応や変容を見て改善を重ねていくと思われる。児童・生徒にとって、キャリア・パスポートが自己のキャリア形成と自己実現に寄与するものになることを期待する。

キャリア・パスポート導入に向けた調査協力者会議（第3回）議事録（2019.1/13）に、2020年4月にすべての小・中・高等学校において実施することはタイトなスケジュールであるという意見が出され、それに対して、藤田座長から「これまでの様々なキャリア教育の施策を振り返ると、完璧に始まったものは一つもなく、とりあえず頑張ってみようというところなので、恐らく今回もそうなるだろうと思います。」と話され、長田委員から「作りながら、走りながら改善していくんだろうな。これは「キャリア・パスポート」に限らず、あらゆる教育活動がそういうものなのではないかな。完璧だと思ってスタートして大失敗、完璧になるまで待っていて結局スタートできなかったとなるよりは、始めることにまず意義があるのかと私は思います。」¹⁴⁾と話している。

筆者も同意見で、まず始めることに意義がある。しかも、2020年4月は、新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休校で、各学校で準備したにも関わらず、出発から困難な状況にあった。現在、1年半経過したばかりである。教育現場で実施しながら、教員や児童・生徒の意見を聞いたり数年積み重ねた児童・生徒の変容を見たりしながら改善を加えていけば、きっとよりよいものになっていくことだろう。児童・生徒が小・中・高等学校と成長した軌跡が手元に残り、キャリア形成と自己実現した自分の大切な財産になるに違いない。

[謝意]

本稿を執筆するにあたり、キャリア・パスポートの実施状況やキャリア・パスポートに対するご意見を教育現場の管理職や教員、世田谷区教育委員の指導主事の方々からいただき、感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 2) 中央教育審議会 2016「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号）pp.18
- 3) 同上pp.56
- 4) 同上pp.232
- 5) 同上pp.234-235
- 6) 文部科学省2017「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編」東洋館出版社pp.82-83
- 7) 文部科学省初等中等教育局児童・生徒課 事務連絡 2019:3:29「「キャリア・パスポート」例示資料等について、「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意点」pp2
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afeldfile/2019/08/21/1419890_002.pdf
- 8) 世田谷区立尾山台小学校編著2019「小学校だからこそ！キャリア教育」実業之日本社 pp.114-127
- 9) 世田谷区教育委員会教育指導課 2019「キャリア・パスポート」についてpp.1-2
- 10) 文部科学省2017「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編」東洋館出版社pp.60
- 11) 文部科学省初等中等教育局児童・生徒課 事務連絡 2019:3:29「「キャリア・パスポート」例示資料等について、「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意点」pp2
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afeldfile/2019/08/21/1419890_002.pdf
- 12) 文部科学省2017「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編」東洋館出版社 pp.77
- 13) 中央教育審議会 2016「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中教審第197号） pp.235
- 14) 文部科学省 2019 1/13 「キャリア・パスポート導入に向けた調査協力者会議（第3回）議事録」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/143/gijiroku/1413600.htm

資料1

学年末の振り返りと次学年への希望をもたせる学級活動（3）の指導案
（第4学年を例に）3学期、3月実施

※学習カードはキャリア・パスポートに入れるものにする。

1 題材 「4年生を振り返って、5年生につなげよう」

2 本時のねらい

1年間の学級目標や個人目標を振り返り自分の成長に気付くとともに、5年生の向けての希望をもつことができる。

3 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	○資料 ◆評価
導入 つかむ (5)	1 1年間の学級の活動や行事、学級目標の達成に向けて、がんばったことやよかったことを思い出して発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の特別活動の足跡やキャリア・パスポートをもとにして、自他のどんなことが成長したか想起できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年間の特別活動の足跡（1年間の学級活動や行事等を綴った掲示物） ○キャリア・パスポート
4年生の成長を振り返り、5年生でしたいことを考えよう			
展開 さぐる (15)	2 学習カードに振り返りを書き、1年間の学級の活動や行事、学級目標の達成に向けて、自分や友達が成長したことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 1、2学期の目標シートや行事のシートを見たり、学級目標に向けて自分が努力したり貢献したりしたことをもとに、自分の成長に気付くようにする。 自分や友達が学級のために貢献したことを出させ、自己有用感をもてるようにする。 	◆自分の成長に気付いている。(発言、学習カード)
見つける (20)	3 4年生の成長を生かしてどんな5年生になりたいか発表させ、5年生からのメッセージ映像を見る。	<ul style="list-style-type: none"> どんな5年生になりたいか話し合った後、高学年の仲間入りをするという趣旨の5年生のメッセージを聞かせるようにする。 	○5年生からのメッセージ映像
	4 どんな5年生になりたいか、そのためにどんなことが必要かを学習カードに書き話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 高学年の自分たちを意識させて考えるようにする。 	◆5年生に向けての希望をもっている。(発言、学習カード)
終末 決める (5)	4 になりたい5年生に向けて、できることを1週間取り組むことを決める。	<ul style="list-style-type: none"> 自分ができそうなことを1週間取り組もうとする意欲をもたせ、それを実践するようにする。 	

資料2

各学期の目標シートの例

○学期の目標と振り返り 名前

常に、なりたい自分や将来の夢など、将来を見据えた内容を書くことで、目標をもって自己実現していく自分の成長過程を可視化できる。

こんな自分になりたい (将来の夢など)

【学習の目標】

自分の目標は、「学習、生活、その他」の3つとし、児童・生徒自身が決める。目標に向かって何をするかを具体的に書く。

【その他の目標】

【学習の目標の振り返り】

【生活の目標の振り返り】

学期末には、3つの目標に対する自己評価を書くだけなので、学級活動(3)の時間が短縮できる。

学級目標を達成するために自分のすること	◎	○	△

学級目標に対して自分が努力することをいくつか書く。それを目標にすることで、学級のために貢献する自分を自覚でき、自己有用感を高めることができる。自己評価は「◎よくできた」「○できた」「△もう少し」にして、チェックする。

教師や保護者が対話的にかかわることが大事なので、児童・生徒の振り返りに対して、自己肯定感や自己有用感が高められるように書く。また、教師は児童・生徒のよさや可能性を気づかせる内容を書く。

【先生からのメッセージ】

【保護者からのメッセージ】